

公募研究 D01-13

## チンパンジーにおける質感知覚・認知の総合的研究： 比較認知科学の観点から

研究代表者 伊村 知子（新潟国際情報大学情報文化学部・准教授）



ヒトはなぜ、質感の違いを知覚するようになったのか。このような問いに答えるためには、ヒトの質感知覚のメカニズムだけでなく、質感知覚がヒトに特有のものなのか、生物の生存や繁殖において何らかの機能を持っているのかについても考える必要があります。そこで、本研究では、チンパンジーとヒトを対象に、生存にかかわる質感知覚の能力について比較します。具体的には、食物の質や状態を見分ける能力や、個体の性別や年齢、健康状態などの指標となる顔色や肌の質感の知覚、素材の質感知覚の能力について検討することにより、ヒトの質感知覚の特徴と、進化的な基盤について比較認知科学の視点から明らかにします。



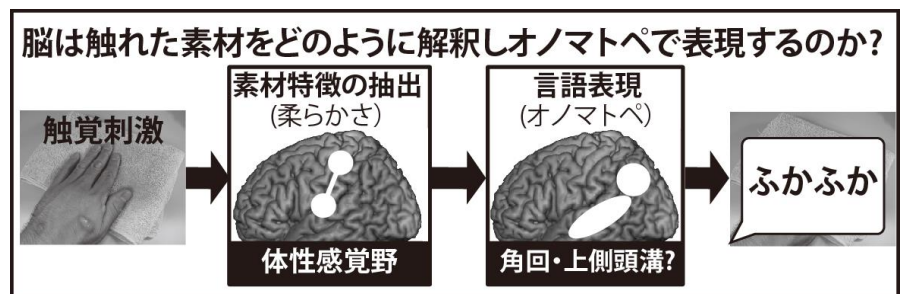
公募研究 D01-14

## 触覚の質感を表現するオノマトペの神経基盤

研究代表者 北田 亮（自然科学研究機構生理学研究所・助教）



私たちは物体に触れることで、その質感を直に経験することができます。従来の心理物理学研究において触覚の素材感は、粗さや柔らかさといった知覚単位で説明できるとされています。しかし実際に知覚する素材感は、多様でかつ複雑なため、知覚単位の量ではなく、「ふかふか」のようなオノマトペで直感的に表現されます。現実に即した素材の触覚メカニズムを理解するには、素材感とオノマトペの関係性を知る必要がありますが、オノマトペを表象する神経基盤は未解明であり、触感とオノマトペの関係性を調べた脳科学研究は行われていません。この背景に基づき本研究は「脳は触れた素材の柔らかさをどのように解釈し、オノマトペとして表現するのか」について認知脳科学的に明らかにすることを目的とし、触覚の質感認知に関する認知脳科学的モデルの構築を目指します。



私たちは物体に触れることで、その質感を直に経験することができます。従来の心理物理学研究において触覚の素材感は、粗さや柔らかさといった知覚単位で説明できるとされています。しかし実際に知覚する素材感は、多様でかつ複雑なため、知覚単位の量ではなく、「ふかふか」のようなオノマトペで直感的に表現されます。現実に即した素材の触覚メカニズムを理解するには、素材感とオノマトペの関係性を知る必要がありますが、オノマトペを表象する神経基盤は未解明であり、触感とオノマトペの関係性を調べた脳科学研究は行われていません。この背景に基づき本研究は「脳は触れた素材の柔らかさをどのように解釈し、オノマトペとして表現するのか」について認知脳科学的に明らかにすることを目的とし、触覚の質感認知に関する認知脳科学的モデルの構築を目指します。